

表 1 コミュニケーション教育研究会開催状況

回	日時 (2007)	内容
1	4月17日	新しい高大連携接続教育のコアとしてコミュニケーション能力の育成が必要であることを確認。 「情報教育研究会」から「コミュニケーション教育研究会」へと改称。 他の接続教育プログラム例の紹介。
2	5月16日 神奈川県立茅ヶ崎高校で開催	高校での「情報」授業参観とその他授業例の紹介。 図書室の見学。 接続教育プログラム用テキスト内容の検討。
3	6月13日	「ケースメソッド」の紹介（講師：慶応大学 西田）。 接続教育プログラム用テキスト内容具体案の策定。
4	7月30日	参考資料・書籍の配布。 テキスト各章の具体例提示。
5	9月20日	具体的な接続教育プログラムの検討。
6	11月8日	日時を含めた詳細な接続教育プログラム「コミュニケーションリテラシー」講座の検討。
7	12月13日	スケジュールと入学者、高校への配布文書の確認。
8	2008年 1月22日	申し込み状況の確認と当日打ち合わせ。
	2月15、16、28 (または29)日 3月12日 (最終日)	高校教員・湘北教職員による4日間の「コミュニケーションリテラシー」講座(全12講)を開講。 「コミュニケーションリテラシー」講座第12講(グループ発表)を高大連携各校に公開。(高大連携協議会開催日)
9	3月26日	「コミュニケーションリテラシー」のふりかえり。アンケート結果の報告と今後の検討。
10	4月24日	「コミュニケーションリテラシー」の単位化計画。フォーラムの開催検討。
11	5月22日	「コミュニケーションリテラシー」の詳細(全15講、1単位)を議論、受講生の効果検証方法について。
12	6月12日	全国アンケートの内容の検討。 DVD等によるフォーラムの講演者の推薦や検討。
13	7月17日	学内(湘北)アンケート結果をふまえ、高校向けアンケートの詳細を検討。 ブレインストーミングによる「職業を持つ社会人として必要な力」の洗い出し。
14	9月25日	フォーラムの内容を決定。講演(3人)+パネルディスカッション。 高校-大学をひとつの教育システムとして見た場合、入り口(高校入学生)の問題を明らかにし、その一方、出口(就職)で求められる人材に必要な力は何かを明確化する。
15	10月30日	高大連携校より回答のアンケート結果の議論と考察。 フォーラム案の決定。
16	11月27日	H21年2-3月実施の「コミュニケーションリテラシー」の詳細確認。 高大連携校より回答のアンケート結果の検討。
17	2009年 1月20日	「コミュニケーションリテラシー」の申し込み状況とフォーラムの準備状況の確認。
	2月6,7,9,10日	「コミュニケーションリテラシー」開講。受講生23校、110名。
18	2月10日	「コミュニケーションリテラシー」反省会。